

株式の状況 & 会社概要 (平成29年9月30日現在)

Stock Information & Corporate Profile

● 株式および株主の状況

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数	125,291,112株
株主数	6,563名

● 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,804	7.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	8,939	7.14
株式会社伊予銀行	5,329	4.25
株式会社愛媛銀行	5,017	4.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,309	3.44
ミウラグループ従業員持株会	4,246	3.39
愛媛県	3,000	2.39
公益財団法人三浦教育振興財団	3,000	2.39
いよぎんリース株式会社	2,906	2.32
野村信託銀行株式会社(投信口)	2,889	2.31

(注)1.当社は、自己株式12,744,553株を保有しておりますが、当該株式には議決権がないため、上記の大株主から除外しております。

(注)2.出資比率は、発行済株式総数に対する持株数の割合を表示しております。

● 会社概要

社名	三浦工業株式会社
設立	昭和34年5月1日
資本金	9,544,007,333円
本社	〒799-2696 愛媛県松山市堀江町7番地 TEL (089) 979-7045 (経営企画室)

● 役員の状況

代表取締役会長	高橋 祐二	取締役	児島 好宏
		常務執行役員	
代表取締役社長執行役員CEO	宮内 大介	取締役	原田 俊秀
		常務執行役員	
代表取締役副社長執行役員COO	西原 正勝	取締役	米田 剛
		常務執行役員	
取締役専務執行役員CCO	細川 公明	取締役	俵 純一
		監査等委員	
取締役常務執行役員	越智 康夫	取締役	広瀬 雅旨
		監査等委員	
取締役常務執行役員	福島 広司	社外取締役	山本 卓也
		監査等委員	
取締役常務執行役員	丹下 聖吾	社外取締役	佐伯 直輝
		監査等委員	
取締役常務執行役員CTO	森松 隆史	社外取締役	仲井 清真
		監査等委員	

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日

そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関
株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先)
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (電話照会先)
☎ 0120-782-031

インターネットホームページURL <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社では手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座をご利用でない株主様は、左記電話照会先までご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいますが)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。

公告方法 電子公告
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができないときは、日本経済新聞に掲載。

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所 市場第一部



● 道後温泉本館

三浦工業本社のある愛媛県松山市には「日本最古の名湯」といわれる道後温泉があります。そのシンボルは明治27年建築の道後温泉本館。公衆浴場としては初めて国の重要文化財に指定されています。

熱・水・環境のベストパートナー

Miura

IR REPORT

第60期 中間株主通信

平成29年4月1日～平成29年9月30日

「世界のお客様に省エネルギーと環境保全でお役に立つ」 100年企業を目指し、“チーム・ミウラ”でチャレンジします



代表取締役 社長執行役員 CEO 宮内 大介

おかげさまで、私たちミウラグループは、間もなく創業60周年を迎えようとしています。創業時より現在に至るまで、独自の省エネルギー技術でさまざまな製品を世の中に送り出し、エネルギー問題や環境問題の改善に努めてまいりました。

その間、株主の皆様を支えていただきながら、国内外で事業を展開し、「設計、製造から販売、メンテナンスまで一貫して行う」というビジネスモデルを強みに成長してまいりました。

これからも、「世界のお客様に省エネルギーと環境保全でお役に立つ」の実現に向け、“チーム・ミウラ”の総合力を最大限に活かしチャレンジし続けてまいります。

第60期(2017年度)中間期の事業の概況を教えてください。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、国内においては、堅調な設備投資に支えられ、主力の小型貫流ボイラや食品機械の売上が伸び、海外においては、中国や韓国において環境規制強化によるガス焼きボイラへの入替需要の増加やソリューション提案営業により順調に売上を伸ばしました。また、当第2四半期連結会計期間より追加となったランドリー事業も、旺盛なインバウンド需要に支えられ、売上を伸ば

しました。この結果、売上収益は55,156百万円(前年同期比17.9%増)、営業利益は6,692百万円(前年同期比15.8%増)、税引前四半期利益は6,909百万円(前年同期比22.0%増)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は4,794百万円(前年同期比25.0%増)となりました。

100年企業を目指しての意気込みを教えてください。

私たちミウラグループは、間もなく創業60周年を迎えます。これまでの成長は、過去の先輩方が各時代において今では想像もできないほどのチャレンジを重ねてきた結果であると実感しています。100年企業を目指すためには、そのチャレンジ精神を受け継いでいかなければなりません。つまり、今、我々がチャレンジし続けることが20年後、30年後をつくるということであると考えます。未来の株主をはじめとするステークホルダーの皆様、そして未来のミウラグループへ贈り物を残すために、さらなる飛躍を目指し、将来に向けて“チーム・ミウラ”で1つとなってチャレンジし続けたいと思います。

ミウラのグローバル化の最新情報を教えてください。

中国では、石炭焼きボイラを禁止する動きやNOx(窒素酸化物)の排出規制が日本以上に厳しくなっており、高効率のガス焼きボイラに注目が集まっています。そのような状況の中、中国の現地法人である三浦

工業(中国)有限公司では、中期経営計画において、第62期(2019年度)の売上計画を第59期(2016年度)売上実績の約2.5倍にて発表しました。今、三浦工業(中国)有限公司では「中国の空をきれいな青空にしよう」をスローガンに提案営業を進めています。今後は更に拠点展開を進め、中国のお客様に省エネルギーと環境問題解決でお役に立ちたいと考えています。

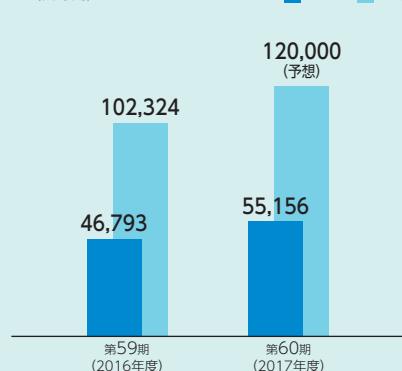
第60期(2017年度)通期連結業績予想数値の修正について教えてください。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、国内では、鉄鋼・化学業界における設備投資の旺盛な需要を受け堅調に推移し、また、海外では、中国を中心に高効率のガス焼きボイラの売上が好調に推移したこと、および2017年7月3日付で株式会社アイナックス稲本ホールディングスをグループの一員として迎え入れ、新たに業務用クリーニング機械の事業軸を得たことから、2017年5月15日に公表しました第2四半期連結累計期間における業績予想を上回りました。このような事業環境を踏まえ、第60期(2017年度)通期連結業績予想を上方修正いたします。また、業績の上方修正により期末予想配当額を1株あたり13円から15円に修正することといたしました。この結果、1株あたりの年間配当予想は、前期比4円増配の26円となります。

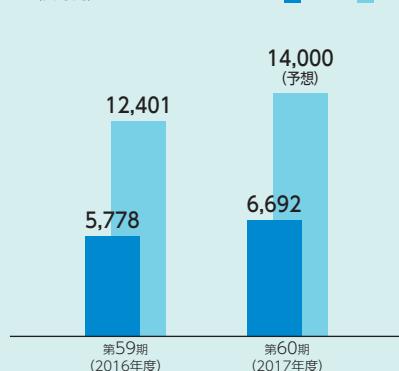
株主をはじめとするステークホルダーの皆様には、今後とも変わらぬご支援のほどお願い申し上げます。

財務ハイライト [IFRS]

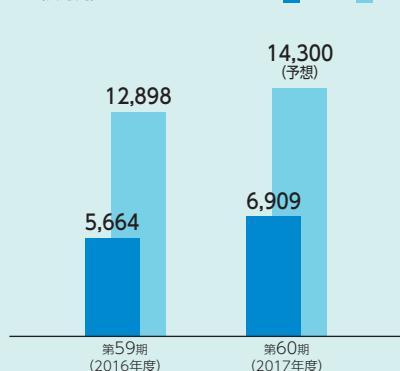
売上収益 (百万円)



営業利益 (百万円)



税引前利益 (百万円)



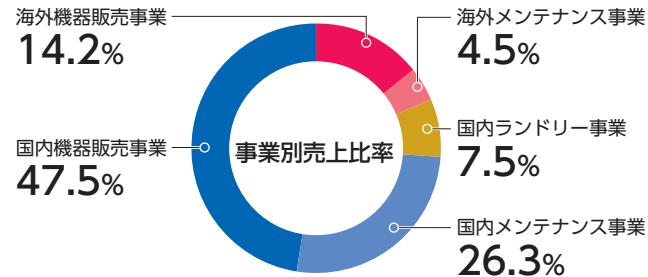
親会社の所有者に帰属する当期利益 (百万円)



(注) 当社グループは、2017年度第1四半期連結会計期間より国際会計基準「IFRS」を適用しております。また、前連結会計年度の財務数値についても、IFRSに準拠して表示しております。

第60期(2017年度)通期連結業績予想数値の修正

	売上収益	営業利益	税引前利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	110,000	11,800	12,600	8,700	77.31
今回修正予想 (B)	120,000	14,000	14,300	9,700	86.19
増減額 (B-A)	10,000	2,200	1,700	1,000	—
増減率 (%)	9.1	18.6	13.5	11.5	—



業績について



- 国内においては、営業・メンテナンス部門を「事業別」から「エリア別」に組織を再編し、ミウラの総合力を活かした「トータルソリューション」の提案を積極的に行ってきたことや、ターゲット市場であった大規模化学工場等へ大型の貫流ボイラの売上が増加したことにより、増収となりました。
- 海外においては、環境への意識の高まりから、中国をはじめとする東アジアやアセアン地域において高効率ガス焚きボイラやメンテナンスの売上が好調に推移しました。



- 株式会社アイナックス稲本ホールディングスを連結子会社化したことに伴い費用が増加しましたが、増収効果により増益となりました。

国内外売上比率 (単位: 百万円)

地域	第59期 2016/9	第60期 2017/9	増減率
国内	38,497	44,861	16.5%
海外	8,296	10,295	24.1%
合計	46,793	55,156	17.9%
海外比率	17.7%	18.7%	—

(注) ※海外売上収益は、海外現地法人の売上収益を集計しております。
 ※当社グループは、2017年度第1四半期連結会計期間より国際会計基準「IFRS」を適用しております。また、前連結会計年度の財務数値についても、IFRSに準拠して表示しております。
 ※株式会社アイナックス稲本ホールディングスを買収したことに伴い、当中間期より国内ランドリー事業を追加しました。

国内機器販売事業

売上収益 **26,175**百万円 **6.0%** ↑

▶**当中間期のポイント**

国内機器販売事業は、船用機器は減収となりましたが、鉄鋼・化学工業の分野で小型貫流ボイラおよび関連機器の売上が好調に推移し、食品機械では、主に真空冷却機や冷水装置の売上が好調に

推移しました。この結果、当事業の売上収益は26,175百万円(前年同期比6.0%増)、セグメント利益は2,045百万円(前年同期比7.0%増)となりました。



国内メンテナンス事業

売上収益 **14,520**百万円 **5.5%** ↑

▶**当中間期のポイント**

国内メンテナンス事業は、ボイラの大容量化や設置台数の増加により有償保守契約の売上を伸ばしました。この結果、当事業の売上収益は14,520百万円(前年同期比5.5%増)、セグメント

利益は4,169百万円(前年同期比7.6%増)となりました。



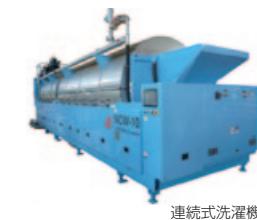
国内ランドリー事業

売上収益 **4,136**百万円 **—%**

▶**当中間期のポイント**

国内ランドリー事業は、観光立国政策による外国人観光客の大幅な増加や、2020年東京オリンピックに向けた工場設備更新や新規設備需要が高まり、売上は順調に推移しました。当事業の売

上収益は4,136百万円となりましたが、セグメント利益は買収に伴う諸費用や無形資産の償却により43百万円となりました。



海外機器販売事業

売上収益 **7,826**百万円 **24.2%** ↑

▶**当中間期のポイント**

海外機器販売事業は、米国やカナダでの販売は前年同期比並みでしたが、中国では大気汚染の深刻な地域において環境規制が強化され、高効率ガス焚きボイラへの入替需要により飼料・ダンボール業界を中心に売上を伸ばしました。

また、韓国でもソリューション提案営業により売上が伸び、台湾やアセアン地域における販売も好調に推移しました。この結果、当事業の売上収益は7,826百万円(前年同期比24.2%増)、セグメント利益は279百万円(前年同期比208.7%増)となりました。



海外メンテナンス事業

売上収益 **2,469**百万円 **23.8%** ↑

▶**当中間期のポイント**

海外メンテナンス事業は、韓国や中国において有償保守契約の取得活動により売上を伸ばし、当事業の売上収益は2,469百万円(前年同期比23.8%増)と増収となりました。セグメント利益

は中国での増員により経費が増加しましたが、増収効果により151百万円(前年同期はセグメント損失111百万円)となりました。



TOPICS

創業者故三浦保の銅像を建立

昨年、創業者三浦保の没後20年を迎えました。三浦保が1959年に愛媛県松山市に小さな工場を興し、ボイラを製造したところから、当社の歴史がスタートしました。その後、苦労を重ねながら、高効率ボイラの開発、複数台の小型ボイラを並べてコンピュータ制御する多缶設置システム、ボイラを販売した後も定期点検で予防保全を行う保守契約を実施、さらにオンラインメンテナンスによるIT化など、今では国内の産業用ボイラでトップシェアの地位を占める当社の礎を築きました。三浦保が構築したビジネスモデルは独自の発展を導くとともに、困難に立ち向かうチャレンジ精神、「夢」に対する思いは社員に受け継がれています。私たちは三浦保の銅像に向かい、夢に挑む自分の姿を見つめ直しながら「100年企業」を目指し、「世界のお客様に省エネルギーと環境保全でお役に立つ」というミッションに挑戦し続けます。

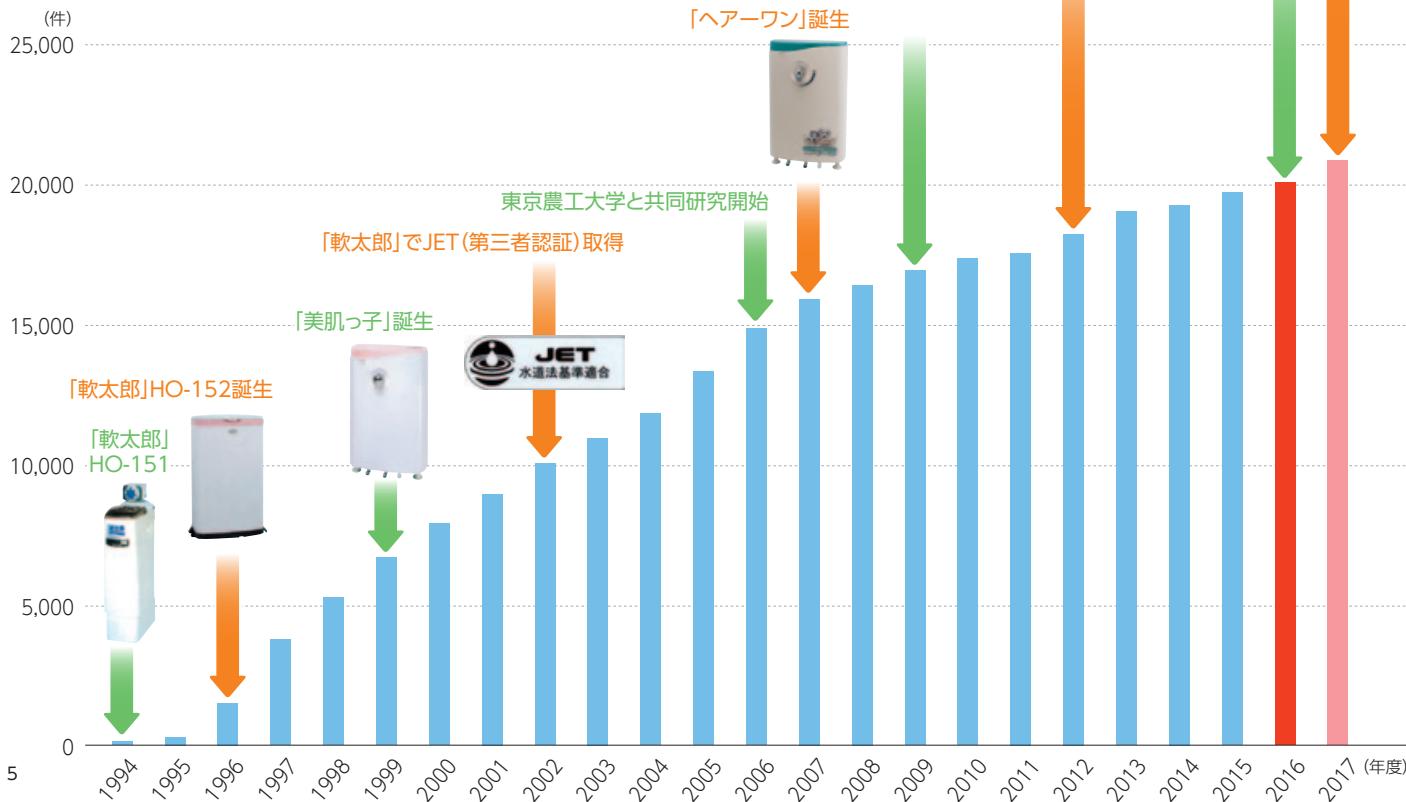


設置場所: ミウラグループ研修施設「ミウラリラトレセンター」敷地内

軟水ライフ・ハッピー契約 契約件数20,000件達成

家庭用軟水器の事業は、業務用軟水器を一般家庭用として改良し、1994年に四国と九州で「軟太郎」HO-151をモニター販売したのが始まりです。それから20余年の間に「美肌っ子」、「ヘアワン」、「洗チャオ!」とラインナップを増やし、軟水ファンを獲得していきました。そして、ようやく昨年末に、ミウラの家庭用軟水器ご愛用のお客様(「軟水ライフ・ハッピー契約」の契約件数)は、20,000件を超えることができました。今年度は新たに「軟太郎ソフティナ」も誕生し、その数をさらに伸ばしております。これに慢心することなく、さらなる軟水文化拡大を目指して精進してまいりたいと思います。株主優待には軟水器や軟水グッズに関するものもごございますので、株主の皆様にも快適な軟水生活をお楽しみいただければ幸いです。

▶ 「軟水ライフ・ハッピー契約」 契約件数の推移



「軟太郎ソフティナ」誕生



「美肌っ子」レンタル開始



「キラリノ」、「ペットシャンプー」誕生



自家用井戸水用「洗チャオ!」誕生



教えて!ミウラマン
ミウラ唯一の家庭用商品ってなに?

お母さんのお風呂上がりは、髪はバサバサ、手はカサカサなんだ。それは水道水の仕業かもしれないね。水道水に入ってる「硬度分」が良くないんだ。えっ!? ということ? こうどぶん?

硬度分
Ca Mg
Ca Mg

カルシウムイオンやマグネシウムイオンで、浴槽に引付く石けんカスの原因にもなるんだ。どうすればいいの?

ここで活躍するのが家庭用軟水器! ミウラ唯一の家庭用商品で硬度分を取り除くよ。

軟太郎ソフティナ®
日本の水道水 硬度 60 mg/L 前後
ミウラの軟水 硬度 1 mg/L 以下
ほぼ検出されないレベル

それなら、髪はサラサラ、お肌しっとりだね!

石けんカスも無くなるからお風呂掃除もラクラク。洗濯物もふんわりさ。ますます美しくなるわよ!

お母さん良かったね!